

宮澤賢治センター通信

(岩手大学内)

(題 字/金森由利子)

第4号

発行人

〒020-8551
盛岡市上田四丁目3番5号
電話 019-621-6672
FAX 019-621-6493
宮澤賢治センター(岩手大学内)
発行責任者 望月善次

目次

- 巻頭言 副代表挨拶……………1
- 賢治センターの歩み……………1
- 第1回総会の開催結果……………2
- 新役員・新企画の紹介……………2
- 特別寄稿(岡澤敏男氏)……………4・5
- 総会記念行事……………5
- 定例研究会の概要……………6~8
- 「経埋ムベキ山」登山……………9
- 第2回全国宮澤賢治学生大会……………10~12
- 全国宮澤賢治学生研究会……………13
- 「会員の声」……………14
- 宮澤賢治記念短歌会……………15
- 事務局からのお知らせ……………16

賢治センターの歩み

(平成19年7月以降)

事務局会議・役員会

当センターの円滑な運営を図るため、毎月一回、事務局会議と役員会を開催しています。

定例研究会の開催

当センターの主要事業として、平成18年6月の第1回以来、毎月一回を目標に開催している。本号では平成19年7月20日の第12回から、本年1月22日の第17回までの開催概要を、5頁以下に掲載しました。

第二回全国宮澤賢治学生大会

◆ 開催日時、10月6日(土)。
会場、岩手大学学生センターG1大講義室。

短歌会表彰

◆ パネル・ディスカッション「学生達の読む賢治童話」

基調講演 佐藤通雅氏 演題「賢治短歌の見方」

◆ 研究交流 発表者4名。

◆ 懇親会 岩手大学内「イン・シーズン」

◆ 実地研修 10月7日(日) 午前中、盛岡市内見学。

(詳細は10頁以下に記載) 総会と記念行事の開催

宮澤賢治センターは、平成18年6月1日に発足し、種々の行事を開催しながら会を運営しています。

この実績を踏まえながら、第一回の総会を次のとおり開催し、事業報告・事業計画・規約の制定、役員を選任が承認されました。

◆ 開催日時、10月6日(土)。
会場、盛岡市産学官連携研究センター。

なお総会に先立ち、パネル・ディスカッション。総会終了後は記念の懇談会を開催。(詳細は次頁以下に記載)

宮澤賢治記念短歌会

当センターの発足以来、賢治縁の百年記念館を会場に、望月主宰の指導を得ながら、毎月欠かさずに例会を開いている。現会員は男・女各六人ほどです。

経埋ムベキ山登山など

キャンパスでの定例会は、学生気分を味わえます。そして、大学バスでのツアーは、賢治の足跡を辿る楽しい研修の旅になっています。

◆ 10月8日(月)胡四王山登山。

巻頭言



「賢治のことをもつと知りたいたい」

宮澤賢治センター副代表 岡田幸助

私は恥ずかしながら文学には全くの音痴で、賢治のことは殆ど知りませんでした。実際、宮澤賢治センターの副代表をつとめる資格は全く無いのでありませんが、「どなたもどうかお入り下さい。決してご遠慮はありません」というものですから遠慮なくこの会に入らせていただきました。

私は岩手大学ミュージアム館長を仰せつかつている立場からどうしても卒業生の賢治を勉強せざるを得ないわけです。「広く宮澤賢治の関心を集約します」というキャッチコピーにぴったりで、センター開設以来、時間の許すかぎり例会に出席させていただきました。その結果、次第に賢治の深い魅力に取付かれてきたという感じです。

二年前まで人文社会科学部の生物学教室にあったワニの剥製標本がミュージアムに移管されましたが、そのワニの納められていた箱を良く調べてみると、なんと賢治の精神的な恩師である島地大等が大西医師から大正十一年に寄贈を受けたものであったのです。賢治は大等の法話に感動してその一生が決まったようなものだそうです。そのワニがなぜ大学にあるのかミステリーです。

また、昨年六月の例会で賢治の好きなキササゲの話を書きました。講師の吉田美和子先生が岩手大学にキササゲの木が岩手大学に無いのはおかしい。是非キササゲを植えて欲しいというものでした。例会終了後、ミュージアム解説ボランティアの方に

聞いてみると、なんと正門を入つてすぐのところにあるではないですか。また上村勝爾教授の指導で植えられた旧正門並木道のキササゲも、一本だけ伐採されずに無事残っていました。旧正門に通じる道はかつて立派なユリノキとキササゲの並木でしたが、昭和五十六年の台風でその一本が人家に倒れ、文部省の指導で全てが伐採されたのです。

一方、残念なのは動物病院前の盛岡の銘木にも数えられていたキササゲが駐車場を作る際に伐採されてしまいました。現在は無惨に巨大な切り株だけが残っているのを見た時は本当に悔しい思いがしました。今後とも、大学は賢治ゆかりのものを大切にしていかなければならないと思います。

総会で承認された宮澤賢治センターの規約と役員・事務局名簿

宮澤賢治センター(岩手大学内)規約

- 第1条 名称**
この会は、「宮澤賢治センター(岩手大学内)」(以下、「本会」という。))と称す。
- 第2条 目的**
本会は、宮澤賢治についての多くの関心を結集し、会員相互の交流を促進して、賢治研究の普及と発展に努めることを目的とする。
- 第3条 事業**
前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 定例研究会
(2) 全国宮澤賢治学生大会
(3) 会員の主催する賢治関連企画
(4) その他必要な事業
- 第4条 会員**
宮澤賢治について関心があり、本会の目的に賛同する者は誰でも会員になることができる。なお、会費は当分、徴収しない。
- 第5条 役員**
本会に、次の役員を置く。
(1) 代表 1名 本会を代表し会務を総括する。
(2) 副代表 1名 代表を補佐し、代表に事故あるときはその職務を代行する。
(3) 理事 若干名 役員会の構成員として、会の運営の審議に当たる。
2 任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、連続任期は3年までとする。
3 各役員は総会において会員の中から選出する。選出方法の詳細については、別に定める。
- 第6条 事務局**
事務局に事務局長、事務局次長、幹事を置く。
(1) 事務局長 1名 日常的な会務の処理・運営上の調整等を行う。
(2) 事務局次長 2名 事務局長を補佐し、事務局長に事故あるときはその職務を代行する。
(3) 幹事 若干名 会の実務を処理する。
2 事務局長、事務局次長は、役員会において互選する。
3 幹事は、役員会において会員中より推薦し、代表がこれを委嘱する。
4 事務局を岩手大学百年記念館に置く。ただし、日常的な連絡場所は、岩手大学地域連携推進センターとする。
- 第7条 総会**
総会は、代表が招集する定例総会を年1回開催する。なお、役員会の決定または会員の三分の一以上の要請があれば臨時総会を開くことができる。
2 総会の議長は、代表が務める。

- 3 総会の議決事項は次のとおりとする。
(1) 事業報告
(2) 事業計画
(3) 規約の制定及び改正
(4) 役員を選出及び改選
(5) その他必要と認められる事項
- 第8条 役員会**
役員会は、代表、副代表、理事、および事務局長、事務局次長によって構成し、必要の都度開催して次の事項を審議する。
(1) 総会の付議事項
(2) 会員の入会及び退会
(3) 本会の業務遂行上、緊急かつ重要な事項
(4) 総会で決定した事項の具体的運営について
(5) その他、必要と認められる事項
- 第9条 事務局会議**
事務局会議は、代表、副代表、事務局長、事務局次長、幹事によって構成し、日常会務及び役員会の議題の整理等を行う。
(付 則)
この規約は、2007年10月11日から施行する。

宮澤賢治センター(岩手大学内)役員・事務局名簿

(平成19年8月1日現在、理事・幹事はアイウエオ順、○は新任)

代表	望月 善次	岩手大学名誉教授・盛岡大学学長
副代表	岡田 幸助	岩手大学ミュージアム館長
理事	姉齒 武司	岩手大学工学部卒業生
	飯村 裕樹	岩手大学教育学部生涯教育課程
同	○石川 格司	岩手大学農学部北水会専務理事
同	稲垣 大助	岩手大学大学院教育学研究科
同	小野 伴忠	岩手大学農学部附属農業教育資料館館長
同	亀井 茂	岩手大学農学部附属農業教育資料館研究員
同	黒澤 勉	岩手医科大学教授
同	○桑島 博	岩手大学農学部北水会会長
同	須藤 宏明	盛岡大学教授
同	砂山 稔	岩手大学人文社会科学部教授
同	玉 真之介	岩手大学理事・副学長
同	千葉 則茂	岩手大学地域連携推進センター長
同	中村 安宏	岩手大学人文社会科学部准教授
同	早川 浩之	岩手大学研究協力課専門員
同	藤田ハミド	岩手県立大学教授
同	向井田 薫	岩手大学農学部北水会名誉会員
同	山本 昭彦	岩手大学人文社会科学部教授
事務局長	中村 安宏	理事兼任
事務局次長	早川 浩之	同上
同	稲垣 大助	同上
幹 事	塩澤 茂宗	岩手大学工学部大学院工学研究科
同	芳賀 洋平	盛岡大学文学部
同	日高 史裕	岩手大学研究協力課主事

「賢治と音楽を 楽しむ会」の発足

このたび「賢治と音楽を楽しむ会」を宮澤賢治センターの活動の一つとして四月より開催いたします。賢治の活動分野は文学に限らず大変多岐にわたっており、特にクラシック音楽においては専門家の域にあったと言われております。賢治はベートーベンに感激し「これに負けない詩を書かなければ」といい、「春と修羅」を書いたと言われております。その意味で音楽を聴く事は賢治により深く迫る一助になると思えます。

今回希望の希望者で、賢治が聞いたと言われる曲を主に聴き、時には賢治の作曲による曲の合唱や演奏、賢治が聞いたと思われる当時のレコードの「原音」を聴くなど「賢治と音楽を楽しむ会」を企画して参りますので、ご希望の方々の参加を心から歓迎いたします。

(姉齒武司 記)



(姉齒武司 記)

宮澤賢治センター第1回総会の開催

- 平成18年6月1日の岩手大学開学記念日に発足した「宮澤賢治センター」も、定例研究会の開催を中心に活動を展開しながら第2年度を迎え、昨年10月11日に第1回総会を開催し、新装なった盛岡市産学官連携研究センターで開催し、次の事項が承認されました。
- 2006年度事業報告(06年6月1日~07年3月31日)**
 - 宮澤賢治センター設立記念ミニパーティーの開催
 - 定例研究会の開催(毎月1回)
 - 第1回全国宮澤賢治学生大会の開催(8月28日・29日)
 - 全国宮澤賢治学生研究会の開催
 - 宮澤賢治記念短歌会の開催
 - 実地研修(バスツアー)の実施(7月19日・9月3日)
 - 小岩井農場ウォークの実施(10月15日)
 - ホームページの開設
 - 「宮澤賢治センター通信」第1号・第2号の発行
 - 2007年度事業計画(07年4月1日~08年3月31日)**
 - 1周年記念総会、パネルディスカッション、記念パーティーの開催(10月11日)
 - 定例研究会の開催
 - 第2回全国宮澤賢治学生大会の開催(10月6日・7日)
 - 全国宮澤賢治学生研究会の開催
 - 宮澤賢治記念短歌会の開催
 - 実地研修(バスツアー)の実施(6月27日・9月16日)
 - 小岩井農場ウォークの実施(5月21日)
 - 「経理ムベキ山」の登山
 - 願教寺調査の実施
 - 会員名簿の作成
 - 「宮澤賢治センター通信」第3号・第4号の発行
 - 規約の制定**
 - 役員を選出**
- 以上について、事務局より説明があり、原案の通り承認されました。
- なお総会終了後、岩手大学の平山学長からも駆けつけ、宮澤賢治センター設立一周年記念の祝賀会を行いました。会場は大いに盛り上がり、五十名近い参加者全員がマイクの前に「賢治」や「センター」への想いを語り、盛会のうちに幕を閉じました。(中村安宏 記)

新役員紹介

宮澤賢治の母校・盛岡高等農林学校(現・岩手大学農学部)は、創立106年目を迎えている。幅広い活動を展開した宮澤賢治は後輩の憧れの的であり、同窓生の誇りでもある。

同窓会「北水会」の役員が改選されたので、新役員を紹介したい。

賢治精神を後輩に



岩手大学農学部 北水会会長 桑島 博

桑島北水会長は、昭和30年に農学部農業工学科を卒業し、直ちに盛岡市役所に勤務し、平成7年からは盛岡市長として2期務められた。

北水会では、2002年の創立百周年記念事業に当たり、会員の意向と希望により、高農時代の本館・現農業教育資料館前に「宮澤賢治ミニユメント」を建立した。制作者の岩手大学薬谷教授によれば、横に広がる像は、賢治の精神が未来へ続くこと、賢治の志が後に続く者が受け継ぐ思いも込められているという。

百年記念館の活用を



岩手大学農学部 北水会専務理事 石川 格司

石川専務理事は、昭和41年に農学部農学科(園芸学講座)を卒業し岩手県農政部に勤務し、平成14年に農林水産部次長を最後に退職している。長い間勤務した農業試験場の経験を生かし、野菜作りを趣味としているが、得意の造園技術を生かし、北水会事務所のある「百年記念館」周辺の樹木管理も心がけている。

この記念館も、創立百周年記念事業の一つとして会員の寄付金により、補修・整備され大学に寄付された建物である。国の

重要文化財である農業教育資料館の東隣にあり、二階の会議室は毎月開催の「宮澤賢治記念短歌会」の会場でもある。

記念館の前には、岩大方式による「北水の池」があり、百年の歴史が刻まれる樹木園には、4代校長・上村勝爾先生が植えられた外国産の樹種も多く見受けられ、盛岡市民の憩いの場となっている。

北水会では、年2回の会報を発行しているが、表紙を飾るカラー写真と、連載シリーズ「同窓生がかたる宮澤賢治」が、多くの会員から好評を得ている。

(向井田薫 記)



農業教育資料館前の「賢治像」 「北水会」提供

宮澤賢治センター設立一周
年を記念し「私の宮澤賢治と
宮澤賢治センターへの期待」
をテーマとしたパネルディス
カッションを行った。

パネラーは盛岡農林専門学
校（最後の）卒業生の向井田
薫氏、元県立高校教諭で朗読
の名手 石原黎子氏、立教大
学大学院生で現在賢治に関す
る修士論文を執筆中の天野伸
泰氏の3名であり、コーディネ
ーターは、当センターの中
村安宏事務局長が務めた。

まず最初に天野氏が、青春
期に自己の存在について悩ん
でいた時に、賢治が一つの指
標を提示してくれたと述べ、
自分の存在がわからなくなっ
たとき、自分とはなんだろう？
と考えたとき、死んだらどう
なるのだろうか？と考えたとき
に賢治の作品を読んでほしい
と述べた。そして、今後の賢
治センターに期待することと
して、

- ①若い研究者が増加すること、
 - ②学生の交流の場になること、
 - ③今後とも長く存続していくた
めに「センター」がさらなる魅
力を備えること、の3点を挙げ、
最後に、全国でひっそりと研究
している学生には、是非とも会
員になって欲しいと纏めた。
- 二番目に発言した石原氏は、
朗読の経験を通して感じた賢治
との関わり方について、賢治作
品を「呼吸すること、
そのためには賢治作品の
持つ「リズム」を自分の
身体で感じることが必要
だと述べた。朗読も交え
ながらの発表で、地域の
言葉を大切にしたいその朗
読は、参加者を魅了した。
- 最後の向井田氏からは、
賢治の生涯の中で盛岡
高等農林学校時代、自啓
寮での生活、とりわけ保
阪嘉内との出逢いに関心
を抱いており、二人の心
情の移り変わりを深く追
い求めている旨の話題が提
供された。そして、賢治
センターへの期待として
は、出来るだけ多くの仲



新装なった会場での初舞台？

(中村安宏 記)

第一回 総会記念

パネルディスカッション

私の宮澤賢治と宮澤賢治センターへの期待

間と、交流できる場を広げて
いって欲しいと訴えた。

3名の発表終了後に、パネ
ラー相互の意見交換や、フロ
アとの質疑応答などがあり、
50分という短時間ながらも充
実した一時を過ごすことがで
きた。

うべきである。それは7月9日
のことだったとみられる。賢治
が盛岡高等農林2年のとき7月
の7・8日の両日、関豊太郎教
授の指導で盛岡付近地質調査を
するために賢治は滝沢村へ盛岡
北西部を担当した。調査の最終
地点が種馬育成所のある茨島野
だったのである。予め情報を獣
医師の友人から入手していたの
かも知れない。賢治はその足で
育成所を訪れ「オーバーヤン
ン」号と邂逅したのであろう。

「頭部は細くて短く、顔はくぼ
んでおり、眼は大きく、首の形
は優美に湾曲し、筋肉質の体躯
で、胸は広く尻は広く水平で、
動きは活発で持久力に富む」と
いうアラブ馬の品格は多くの人
を魅了してやまなかったといわ
れる。初めて見たアラブ純血種
の優美な容姿に賢治は惚れ惚れ
と見とれたに違いない。このよ
うにして「貴きアラブの種馬」
の若き肖像を、賢治は深層に刻
み込んだのであるまいか。

この「オーバーヤン」号
の父「オーバーヤンVノ6」号
の素姓について奥羽種馬牧場
（現在は「畜産改良センター奥
羽牧場」）を訪れ約1日がかり
で資料を渉猟した結果、この馬
の血統書を探し当てたのである。
血統書によると「オーバーヤン
Vノ6」号はハンガリーの名門

ポバルナ牧場から明治44年に馬
政局が6千クローネ（十一頭分
か？）の大金を投じて購入した
ということが分かった。1クロー
ネは約50円に換算されると、6
千クローネは30万円となる。仮
に十一頭分としても一頭平均約
3万円弱となる。明治44年に輸
入されたアラブ種馬一頭平均
は二七五七円であったから、か
なり高額であったに違いない。
ちなみにハンガリーのポバルナ
牧場は一七八九年に創立された
もので、軍当局が牧場のすべて
の牝馬に東洋貴種の血を加える
ように命じ、一八三〇・四〇年
にかけて東洋からアラブの種馬
を輸入して更に血を加え、その
卓越した子孫から華毛のシャグ
ヤ号が誕生した。昭和天皇の愛
馬「白雪」はこのシャグヤ系の
華毛の馬でポバルナ牧場のアラ
ブ種であったという。なお
「オーバーヤンVノ6」号の種
付け成績は、成績最も優良だっ
たと『日本馬政史』に見られる。
賢治は「オーバーヤンVノ6」
号の初産駒「オーバーヤンノ二」
号に、岩手山の霊力を与えて汗
血馬となし、内国産牝馬から沢
山の優れた仔馬を産出させるよ
うに折りをこめて綴ったのが文
語詩「悍馬」（一）だったと思
われる。

特別寄稿

「貴きアラブの種馬」モデル考

小岩井農場展示資料館前館長
岡澤 敏 男

宮澤賢治の作品のなかに「馬
の登場頻度は一九四」を数える
ほど馬好きな賢治にとつて、
『文語詩稿 五十篇』の「悍馬」
（二）に登場する「貴きアラブ
の種馬」が決して幻想の産物で
はあるはずはないと思う。詩編
「北上山地の春」には多様な品
種の馬の特性がみごとに形容さ
れて居り、純血のアラブ種に対
して賢治は崇高な思慕を秘めて
いたとしても不思議ではない。

わが国は古来より良馬は陸奥
に産し、源平時代以来騎馬軍団
の重要な生産地であった。甲斐
源氏の一族南部氏は源頼朝に従っ
て奥州平泉の泰衡討伐に参戦し
て糠部五郡を所領することにな
り、一戸から九戸に至る南部九
牧を経営することになった。南
部馬の名声は江戸時代において
も高く、徳川家をはじめ諸藩の
御馬買役人が出羽側から国見峠
を越えて盛岡城下に往来するよ
うになった。しかし日清・日露
戦役によって国産馬匹の劣悪さ
が露呈したことにより、馬政当
局は外国種馬によって「より速
く、より強く、より遅しく」国
産馬匹を改良すべく明治29年

大正元年までに全国三カ所に種
馬牧場（奥羽、日高、十勝）と
一カ所に種馬育成所、一五カ所
に種場所を設立した。そのうち
明治29年に奥羽種馬牧場を青森
県七戸に、同40
年に種馬育成所
が岩手県滝沢に
開設されること
になった。こう
して旧南部藩の
馬づくりの地に
「富国強馬」の
体制が整ったの
である。

奥羽種馬牧場
は軽種（乗用馬）
のアラブ、サラ
ブレッド、アン
グロアラブ種の
繁殖にあたるこ
ととし、明治39
年以降、毎年馬
政局の係官を欧
州に派遣して欧
米貴種の馬匹を
購入し種馬牧場
に入厩させた。
七戸の奥羽種馬
牧場で繁殖した

牡馬は三歳の7月に滝沢の種馬
育成所に配付された。種馬育成
所は配付された三歳馬を育成調
教し、四歳の秋季に全国の種馬
所に配付するのである。種馬育
成所は二戸郡荒沢村に荒沢分厩
を設けて毎年七月より十月末ま
で山地放牧を実施した。

このようにアラブ種の繁殖の
構図は奥羽種馬牧場（滝沢）

種馬育成所へ全国種馬所の組織
のもとに「貴きアラブの種馬」
モデルが現出するのである。

奥羽種馬牧場に最初の純血ア
ラブ種牡馬が入厩したのは明治
44年のことで、ハンガリーの貴
種の血統をうけつぐ「オーバー
ヤンVノ6」号であった。その
初産駒が「オーバーヤンノ一」
号で「貴きアラブの種馬」モデ

ルとなった馬だった。大正5年
7月初め二歳牡馬として奥羽種
馬牧場から種馬育成所に入厩し
たのである。7月下旬には荒沢
分厩（安比高原）に移動し10月
末まで山地放牧する日程になっ
ていた。本厩に繋留する半月ば
かりの限られた期間に賢治が
「オーバーヤンノ一」号に遭遇
し得たのはまったくの僥倖とい

「北上山地の春」には多様な品
種の馬の特性がみごとに形容さ
れて居り、純血のアラブ種に対
して賢治は崇高な思慕を秘めて
いたとしても不思議ではない。

わが国は古来より良馬は陸奥
に産し、源平時代以来騎馬軍団
の重要な生産地であった。甲斐
源氏の一族南部氏は源頼朝に従っ
て奥州平泉の泰衡討伐に参戦し
て糠部五郡を所領することにな
り、一戸から九戸に至る南部九
牧を経営することになった。南
部馬の名声は江戸時代において
も高く、徳川家をはじめ諸藩の
御馬買役人が出羽側から国見峠
を越えて盛岡城下に往来するよ
うになった。しかし日清・日露
戦役によって国産馬匹の劣悪さ
が露呈したことにより、馬政当
局は外国種馬によって「より速
く、より強く、より遅しく」国
産馬匹を改良すべく明治29年

braun: arab. Vollblüt
schwarz: " Halbblüt

Pedigree:

Königliches ungarisches Staatsgestüt Babelna

O-Bajan V-6

araber Rasse, Flugst.

Gestütabrände an der Sattelkappe: links: B^s rechts: B^s Klasse: 159 (Band)

Geboren: Am 2. Januar 1908

Farbe und Zeichen: Lichtfuchs, klein, erster Rechter im Saue, zwei
Hintere bis zur halben Höhe weiß.

Abstammung:

Mutter: Inyanol	Vater: APAROL
5. Gazlan I. araber Vollblüt, abnehmer Fuch, Schimmel, geb. 1896	Abajan V. araber Rasse babolnaer Fuch, braun, geb. 1892
4. O-Bajan araber Vollblüt, babolnaer Fuch, Schimmel, 1890	58. Janhan araber Rasse, abnehmer er Fuch, Lichtfuchs, 1880
81. Korbak original Araber Schimmel, 1911	71. Malmud III. araber Rasse, 1892
O-Bajan original Araber Rappe, 1910	57. Janhan araber Rasse, abnehmer er Fuch, Lichtfuchs, 1880
66. Frazant araber Vollblüt, babolnaer Fuch, 1896	72. Malmud II. araber Rasse, 1892
Gazlan I. araber Vollblüt, abnehmer Fuch, Schimmel, 1896	73. Malmud I. araber Rasse, 1892
77. Malmud I. araber Rasse, 1892	74. Malmud I. araber Rasse, 1892
78. Malmud I. araber Rasse, 1892	75. Malmud I. araber Rasse, 1892
79. Malmud I. araber Rasse, 1892	80. Malmud I. araber Rasse, 1892
82. Malmud I. araber Rasse, 1892	83. Malmud I. araber Rasse, 1892
84. Malmud I. araber Rasse, 1892	85. Malmud I. araber Rasse, 1892
86. Malmud I. araber Rasse, 1892	87. Malmud I. araber Rasse, 1892
88. Malmud I. araber Rasse, 1892	89. Malmud I. araber Rasse, 1892
90. Malmud I. araber Rasse, 1892	91. Malmud I. araber Rasse, 1892
92. Malmud I. araber Rasse, 1892	93. Malmud I. araber Rasse, 1892
94. Malmud I. araber Rasse, 1892	95. Malmud I. araber Rasse, 1892
96. Malmud I. araber Rasse, 1892	97. Malmud I. araber Rasse, 1892
98. Malmud I. araber Rasse, 1892	99. Malmud I. araber Rasse, 1892
100. Malmud I. araber Rasse, 1892	101. Malmud I. araber Rasse, 1892

Verkauft am 11 Juli 1911 an die japanische Regierung
für 6000 Kronen.

Babelna 1929 ang. Fen

Siegling,

「オーバーヤンVノ6」号の血統書（手
家畜改良センター奥羽牧場、旧奥羽種馬牧場、所蔵

定例研究会の概要

第12回 7月20日(金)

- ▽会場 岩手大学学生センター・3階G32号室
- ▽講師 岩手大学人文社会学部 准教授 小島 聡子氏
- ▽演題 「日本語の歴史における宮澤賢治の時代」
- ▽司会 望月善次
- 参加者 三十名。

宮澤賢治について、私の勉強している日本語学の立場からは、彼の言葉について考えることになる。しかし、言葉は一人で使うものではない以上、彼個人の言葉に限るのではなく、まずは宮澤賢治の時代の言葉全体をみる必要があると考え、今回の報告では「宮澤賢治の時代の言葉」と題して話をさせていただくことにした。

宮澤賢治の文章は今も苦もなく読め、現在の言葉と違わないように見える。しかし、実は彼の時代の特に書き言葉は、たとえ口語であっても、現代と異なるところが多い。現代の口語の書き言葉は近代以降に作り上げられてきたもので、彼の時代には

はまだ発展途上にあつた言葉だからである。

近代化が始まった当初は話し言葉と書き言葉は乖離していたが、それでは都合が悪いことになり、書き言葉を話し言葉に近づける言文一致運動が起こってきた。しかし、話し言葉は地域・位相での差が非常に大きく、「言文一致体」を作るにも難しいところがあった。そのため、この文は初めはゆれが大きく定まらないところも多かった。一方、書き言葉の言文一致に対し、話し言葉においては東京の言葉を基準に「標準語」の制定・普及が画策されていくようになる。これが賢治の生まれた前後の状況である(講演では具体的に賢治の年譜と日本語の歴史を比較した表によって説明した)。

宮澤賢治は、ごく初期の標準語教育を受け、高等教育も郷里で受けて、東京には馴染みが薄いと、いわば地方における標準語第一世代である。

宮澤賢治の言葉の実際を見ると、方言として書かれたわけではない文の中にも、現代の私たちがから見ると「標準語」らしいか

らぬ表現が見られる。それらを分析すると、方言の影響も考えられるが、標準語自体のゆれの問題も見られ、興味深い。宮澤賢治にとって、所謂「口語」を使って書くことは、私たちが想像する以上に苦勞を伴うことだったと思われる。(小島聡子 記)

第13回 8月27日(月)

- ▽会場 岩手大学地域連携推進センター・ゼミ室
- ▽講師 前県立大船渡農業高等学校 校長 阿部 彌之 氏
- ▽演題 「賢治とリンゴ」
- ▽司会 中村安宏
- 参加者 二十五名。

心象スケッチ詩人宮澤賢治は創作者、科学者の目でしっかりとリンゴを見ていた。

明治新政府が海外から導入した苹果(西洋リンゴ)は賢治の時代には未だ珍しく、魅力的な果実であった。賢治は子供の頃から近所の武家屋敷に色づく苹果を見て育った。しかし、国内でも最も早く苹果栽培が取り組まれた盛岡での中学生、そして、見事な果実を着ける各種果樹見本園を備えた高等農林学校時代には、それらの品々に、直に感じて感激したことだろう。(阿部彌之 記)

来歴四〇年を経て定着し、人気品種も出かかっていたリンゴ栽培の講義も実習も受講したからだ。この時代、「中村・果樹園芸」の著書が大正元年に刊行した中村 鼎が講義を担当した。その著者が指導してくれた内容が、花巻農学校で賢治が創作して生徒に上演させたコミックオペレッタ「飢餓陣営」(バナナン大将)中の生産体操で紹介した果樹樹形などであった。

賢治作品にリンゴの登場する回数は外の果実の比ではない。その表現も①果色の輝き、匂い。②果形を銀河系宇宙や天体に見たり。実に、想像は豊かだ。「他界性の象徴」だとか。「リンゴ果実の形態は」内面と外界との関係で反転することの可能な四次元世界の模型として最高の銀河モデル」だと研究者は指摘する。

私の関心事は「銀河鉄道の夜」で賢治が記した「この辺ではもちろん農業はいたしませんけれども大抵はひとりだに、ものがでるような約束になつて居ります。農業だつてそんなに骨は折れはしません。」の箇所です。初期リンゴ栽培者たちが立ち向かっていた困難に詩人がどのように応えて来たのかを探る事に在る。(阿部彌之 記)

第14回 9月27日(木)

- ▽会場 盛岡市産学官連携研究会センター(略称・コラボMIU)1階中会議室
- ▽講師 岡田副代表
- ▽演題 「キャンパス内で賢治を探求」
- ▽司会 中村安宏
- 参加者 十九名。

演題では岩手大学キャンパス内のような賢治ゆかりのものがあるか、ミュージアム館長をしながら知っていたことを紹介した。ミュージアムの目的は大学で生まれた教育研究成果を収集、整理、保存し、価値あるものを展示、公開、情報化することである。従って本館には各学部の研究成果の展示が主であり、賢治関係の資料は展示していない。しかし大学まるごとミュージアムとして、大学内をみてみると結構あることがわかる。

まず農業教育資料館には賢治の収集した石をはじめ恩師である關豊太郎の写真、得業論文、岩手県神宮地質及土性調査報告書のコピーなど多数の資料が展示されている。農学部附属植物園には賢治ゆかりの樹木に賢治の創作した短歌を添えた解説の案内板がある。すなわち「あはれこは人にむかえるこ、ろな



キャンパス内の「賢治の足跡」を説明

り ひのきよまことなればなにぞや、「あさひふるはくうんぼくの花にきて黒きすがらしべを噛みあり」、「六月のブンゼン燈のよはほのほ はなれて見やるぶなのひらめき」の短歌が詠われたヒノキ、ハクウンボク、ブナの樹木の前に案内板が立っている。

動物の病氣標本室には家畜の病氣の標本がホルマリン瓶に保存、展示されているのであるが、賢治が「アザリア」で「盛岡高等農林学校に來ましたならば、まず標本室を覗いてから植物園で母でも御馳走しようではありませんか」と述べた「標本室」はこのことである。またこの文章で言う「植物園」は現在の自然観察園のこと、そこには賢治と学友の写真が石盤に焼きつけられて石碑として設置されている。これからもミュージア

ムと賢治センターは連携して地域の皆様と共に歩んでいきたい。(岡田幸助 記)

第15回 11月22日(木)

- ▽会場 コラボMIU 1階中会議室
- ▽講師 岩手大学農学部 長 藤井 克己氏
- ▽演題 「宮澤賢治の生きた時代」
- ▽司会 望月善次
- 参加者 三十名。

宮澤賢治の作品の魅力は、ことばの響きの心地よさとオノマトペの豊富さ、それによるリズム感、情感の發揮にあると思います。私(講演者)にとって教科書で学んだ賢治作品は、高校生、現代国語(筑摩書房)の『永訣の朝』でした。「まがたてつぼう玉のようにこのくらしいみぞれのなかに飛びだした」という表現に、妹との永遠の別れを迎えようとしている賢治の心象が偲ばれて、またその表現の巧みさになったものです。と同時に、私が不思議に思ったのは、既に知っていた童話作家としての賢治と、このとき知った詩人としての賢治が同一人物だということでした。伝える相手の世代と、その文学ジャンル



賢治の時代の「ことばの重み」を説明：盛岡タイムス提供

も異なる。二つのものを、賢治はどのように併せていたのか、高校生の私は首をひねるばかりでした。

今にして気づくのは、童話と詩、いずれも「文字」より「ことば」に力点のおかれる表現方法だということです。改めて賢治の生きた時代(1896~1933年)を振り返ると、テレビの開始(1953年)は言うに及ばず、ラジオも1925年スタートと、まだ一般的でなかったことが分かります。現在はテレビの画像も精密になり、音響のみのFMラジオよりはるかに大きな情報量を伝えています。しかし賢治の生きた100年前の時代は視覚を通して理解するよりも、聴覚を通して感性に働きかけることばのほうがより効果的だったことでしょう。

第16回 12月10日(月)

- ▽会場 岩手大学地域連携推進センター・ゼミ室
- ▽講師 前盛岡市杜陵小学校 校長 石田 紘子氏
- ▽演題 「岩手と山梨を結ぶ『友情の樹』」
- ▽司会 中村安宏
- 参加者 三十名。

宮澤賢治と保阪嘉内。二人の友情と高い志は、「やまなし」と「ギンドロ」の交流という形で現代に継承されている。舞台は、賢治の生まれた岩手県と、嘉内の生まれた山梨県。石田氏の講演は、そこで行われた両者の交流の一部始終を目的の当たり

にすものだった。以下、その模様を簡単ではあるが紹介したい。

友情の樹「やまなし」の交流の主役は、石田氏が校長を務める二〇〇二年の盛岡市立杜陵小学校五年生、四十九人。物語の始まりは、同年に行われた経済産業省企画の「キッズマート」(起業体験)であった。翌年、国語の授業で学習した宮澤賢治作「やまなし」の理想の世界に感動していた彼らは、その益金を使い、学校に卒業記念樹として「やまなし」を贈ることを企画する。

早速、岩手県内で苗探しをするのが難航。そこで石田氏は、知人を介し山梨県に相談した結果、同県から「やまなし」の苗木三本贈呈の朗報が届くことになる。そのプレゼントに、同氏は驚き、子どもたちは感動したという。平成十六年三月の卒業式、四十九人の主役等は、山本栄彦山梨県知事の「やまなしのように立派に美しく育っていく」ことを願うメッセージと共に、苗木の目録を受け取った。そして、同年四月二十九日のみどりの日、温かい思いのこもった三本の「やまなし」は、校舎内に二本、岩手公園賢治詩碑側に一本と分けられ、子ども等の手によって植樹された。



「ギンドロ」と「山梨」が「やまなし」と「山梨」を結んだ交流。それは、固い友情という絆で結ばれていた賢治と嘉内、各々の古里であるへ岩手と山梨の交流である。共に、へ子どもたちと「やまなし」の交流へやへ「やまなし」と

そして物語は、友情の樹「ギンドロ」の交流へと向かっていく。平成十九年八月、賢治・嘉内生誕一〇周年記念事業委員会から、「ギンドロ」をお世話していただきたいと電話が入る。「やまなし」を無償で提供してくれたい山梨県に「お返しができればいいなあ」と思っていた石田氏は、その電話により「お返しができる」という強い思いに変わったと言う。

それから、達増拓也岩手県知事の知人を介して県に協力を依頼したところ、知事に快諾を貰い、雫石町の小岩井農場から「ギンドロ」の苗木三本を無償で提供されることになった。そして、同年十月、岩手の「ギンドロ」三本は、達増知事のメッセージと共に、嘉内の古里である山梨県斐崎市に贈られ、十三日には「保阪嘉内・宮澤賢治花園農村の碑」の除幕式と共に、記念植樹が行われた。「このようにして行われた「やまなし」と「ギンドロ」の交流。それは、固い友情という絆で結ばれていた賢治と嘉内、各々の古里であるへ岩手と山梨の交流である。共に、へ子どもたちと「やまなし」の交流へやへ「やまなし」と

第17回 1月22日(火)

△会場 コラボMIU 1階
△中会議室
△講師 宮澤賢治センター理事 姉齒 武司氏
△演題 詩「雨ニモマケズ」の一考察
△司会 中村安宏
参加者 二十六名。

うです。谷川徹三は明治期より現在までで最高の詩といっておられます。又賢治における法華経は賢治文学の骨格です。その法華経の十界論から「雨ニモマケズ」を考えました。今回私は天台大師の「摩訶止観」の「一念三千論」の「十界論」で「雨ニモマケズ」を見てみました。一念三千論は生命を完璧に分析、分類した天台の生命論体系と言われており、伝教大師が日本に伝え、日蓮が引き継いだ教えです。

賢治は当時盛岡北山願教寺の住職で仏教学の泰斗、鳥地大等が著した「漢和対照妙法蓮華経」に大感動し一生を決定したと言われております。さて、十界とは地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天、声聞、縁覚、菩薩、仏の各界をいい、ここでは紙面の関係上詳細は略し、本文でも省略しますが本文を当てはめながら見ていただければと思います。



「雨ニモマケズ」は「十界」につながる

「雨ニモマケズ」から「暑サニモマケズ」まではnon修羅界、「欲ハナク」から「瞋ラズ」まではnon餓鬼界・地獄界、「イツモ」から「ワラツケル」までは人界・天界、「アラユルコトラ」から「入レズニ」までは「non餓鬼界、「ヨクミキシ」から「ワスレズ」までは声聞界・縁覚界、この詩の白眉といえる「東ニ」から「ヤメロトイヒ」まで菩薩界・仏界、「ナミダヲナガシ」「オロオロアルキ」は地獄界、「デクノポルトヨバレ」は畜生界、「ホメラレモセズ」から「ワタシハナリタイ」まで人界とよみました。これで十界が著されております。尚、nonとしたのはその界の否定形でその生命状態をさしております。

その短い詩に十界が全て読み込まれ、読む人の十界に反響し感動を与えるのでないか、また、その菩薩界の生命を大きく詠っていることが憧れを感じさせ、現代文明が抱えている行詰まり打開の方向を感じさせるのではないかと思います。梅原猛が「21世紀に生きる詩人」と言った所を感じさせます。

当初茶話会の役員は私一人のため参加者の皆さんに毎回お手伝いをいただき、参加者なのか役員なのかかわからないような申し訳ない状態の出発でした。しかし前々回より小菅アイさん、島山尚子さん、鈴木正子さんという方々が茶話会の強力なスタッフとして力を貸してくださる事になり本当に感謝しております。ともかく今後定例会と車の両輪のように活動していけたらと思っております。

「茶話会」便り

定例研究会終了後の「茶話会」は、望月センター代表の発案で始まり、第9回定例研究会後からの開始となりました。その趣旨は定例会で質問も出来ませんが、講師を囲みゆつくりと懇談や質問等、お茶を飲みながら心ゆくまで話し合いが出来たらとの思いで始めたもので、「賢治を一日に二度楽しむ方法」と銘打ち望月先生のご指導のもとに行つて参りました。

茶話会は別名「注文品目の少ない料理店」と名付け、どなたでも遠慮なく参加していただければよい茶菓子代として一人300円、ただしビールを所望する方は合計500円と決めております。

「経埋ムベキ山」登山報告

第2回 胡四王山

宮澤賢治センター代表 望月善次

二〇〇七年十月八日(月)に行つた第二回「経埋ムベキ山」登山は、急遽へ胡四王山」となつた。

「急遽になった」としたのは他でもない。実は、この第二回「経埋ムベキ山」登山は、当初「姫神山」を予定していたところを、雨天の為、急遽変更したからである。

姫神山登山については、大河原清教授(岩手大学教育学部附属教育実践総合センター)の御支援のもと、参加者枠に小学生を加えたり、盛岡以外の方にも参加を呼びかけて戴いた。その結果、盛岡市内の小学生や遠く宮古市からの参加希望者もあり、少なからざる人に楽しみにして戴いていたのだが、天候には勝てず、こうした結果になってしまった。実は、大河原教授の方は、7月にも姫神山登山を雨天で流した御体験の後でもあったから、申し訳ない思いも一層のものがあった。

登山指導の江刺家誠氏(盛岡山友会)とも直前まで協議も重ねたが、結局は雨には勝てなかつたわけである。しかし、「雨天

による登山中止」を「楽しむ」のはいかに賢治的か。賢治の盛岡高等農林学校時代にも、次のような短歌がある。

其のくみもかく雨とさす月の夜をあわれと見つ過ぎて来しらん。

(その昔も、このように雨が閉じこめた月の夜を趣きがあると見ながら過ぎて来たのでしょうか。)

「中秋十五夜」、「アザリア」第三号)

改めて、楽しみにして戴いていた方々にはお詫び申し上げたい。胡四王山は、「経埋ムベキ山」三十二山のうちの三番めの「山」。「雨ニモマケズ」手帳のこの部分は普通とは反対の左側から書かれている。

「飯豊森、観音山」に続いて「胡四王」として記されている。(手帳の一四三・一四四ページに記されている最後の「山」は「篠木峠・沼森」となっている。「経埋ムベキ山」全体が「星座構成」になっているとも言われているので(畑山博)、どうした星座の、どのあたりにかについ



「雨ニモマケズ」胡四王山登山?

て関心のある方もあろう。「経埋ムベキ山」は、「山」と名付けられてはいるものの、岩手山や姫神山のように本格的な「登山」に相応しいものもあれば、「山」というより、「丘」とか「森」と言った方が相応しいものも含まれており、第一回「経埋ムベキ山」登山として訪ねた「岩山」や今回の胡四王山もそうしたものの一つ。

「宮澤賢治センター」の目指すところは、「賢治への関心」を自由に、多様に展開することにあるわけだから、こうした意外な「山」から「経埋ムベキ山」に入っていくのも、案外正統的かも知れないなどと思つたりした。

胡四王山は標高百七十六メートル。薬師如来を本尊とする「医王胡四王」という寺に由

来する「胡四王神社」が在ることと知られていたのだが、現在では、宮澤賢治記念館がある場所として知られている。

賢治が愛した山で、「山上の木に囲まれし神楽殿/鳥とよみなげば/われかなしむも。(歌稿B179)」は、この地がモデルだとも言う。

当日は、バスで宮澤賢治記念館駐車場まで行つて、その後の「歩行」であったから、ほんの「気持ちだけの「登山」。(あれは、「登山」ではなく、「横歩き」であったと残念がったり、面白がる声がかもした。)

普段なら、胡四王神社からは、花巻の盆地や周囲の山々が見事に見える場所であり、訪ねたのは、丁度、実りの時期でもあるから、絶筆「方十里稗貫のみかも/稲熟れてみ祭三日/そらはれわたる」にも引き合う展望が可能などところであるが、当日は天候のため、霧の合間を縫つて僅かにその展望を想像するというのが、精一杯のところ。

宮澤賢治記念館を初めとする、周囲の賢治関連の場所も廻つたことや、バスの中の参加者によるスピーチは、賢治センター名物の一つなので、そのことなども記したいが、それは次の楽しみにしたい。他の機会に譲ることにしたい。



講師を囲んでの質疑応答。写真撮影・盛岡市泉沢竹男さん

さて「茶話会」では参加者全員より自己紹介や本日の感想という事で「1分間スピーチ」をしていただくのですが、その時間が守られたことはありません。皆さん元気に堂々と話す人もいて大いに盛り上がります。会では当日の講師に質問がほとんど出て、緊張する場面もあります。講師の専門が理系であるのに、文学になぜそのように詳しいのかとの質問!「高校時代の国語の先生が古文をよく教えてくれ、それで文学が好きになつた」とのお話に、教育の重大さや影響性を皆が改めて納得したこともありました。今後とも、茶話会でのエピソード等を掲載できればと思っております。(姉齒武司 記)

「第二回全国宮澤賢治学生大会」開催報告

〈全国〉に相応しい大会作りを
～学生の枠を広げた
新たな交流の場へ～

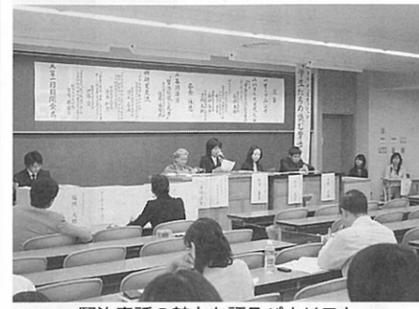


第二回全国宮澤賢治学生大会
実行委員長 稲垣 大助

二〇〇六年八月、学生による「宮澤賢治」探求の新たな創出として開催した第一回大会から早一年。今年の十月六日(土)・七日(日)の両日、ついに「第二回全国宮澤賢治学生大会」が、岩手大学学生センター一階を会場にして行われた。大会には、全国から約一五〇人もの方が訪れ、第一回大会以上の盛り上がりを見せた。以下、その報告をしていきたい。

一、大会概要

第一日目 十月六日(土)
オープニング 9:30～10:00



賢治童話の魅力を語るパネリスト

- ◇開会の挨拶／望月善次(賢治センター代表)、稲垣大助(大会実行委員長)
◇御祝いの言葉／平山健一(岩手大学学長)
◇第一回記念短歌大会表彰式
◇音楽演奏／岩手大学学生有志
◇パネル・ディスカッション
10:00～12:00
◇テーマ／「学生たちの読む賢治童話」
◇コーディネーター／稲垣大助(岩手大学大学院)
◇パネリスト／松下香奈(高知大学)、エフセエワ・エカテリーナ(岩手大学大学院)、山口文子(法政大学)、吉岡太朗(京都文教大学)
■基調講演 13:00～14:30
講師／佐藤通雅氏(第十回宮沢)

- 賢治賞受賞者
演題／「賢治短歌の見方」
■研究交流 14:40～16:45
◇澤井夏美(岩手県立大学大学院)
「ソフトウエア科学からの宮沢賢治へのアプローチ」
◇後藤和彦(関西大学大学院)
「宮沢賢治「歌稿(B)」―大正十年四月「歌群考」近代的聖地における批評性とその展開―」
◇伊藤愛(盛岡大学)
「狼森と筑森、盗森に関する一考察―人間と森との関係の変化―」
◇古寺弥栄子(新潟大学大学院)
「宮澤賢治「銀河鉄道の夜」論―天の川の水のあるところ―」
■第一日目閉会式
17:00～17:15
◇開会の挨拶／大野真男(岩手大学副学長)
■第二日目 十月七日(日)
■実地研修 8:40～12:00
「盛岡、賢治ゆかりの地を巡る」
■閉会式(岩手大学)
◇講師／望月善次
◇閉会挨拶／稲垣大助、飯村裕樹(大会実行副委員長)

二、幅の拡張を大会の成果に

「賢治の交流」、「学生間の交流」、「地域との交流」。これら

三大交流は、当初から継続して大会の開催目的に位置付けている。そして、それらの交流が拡張される形で実現するに至ったことが、今大会の大きな成果であると言える。中でも、最も拡張の形態が明確化したのが「参加者の幅」である。ここでいう幅とは、広く全国の大学(院)生を結集する意味での「横の幅」と、大学(院)生に限らず小学生から高校生までも含め、学年横断的に開催するという意味での「縦の幅」の二つの側面を持つている。前者については、賢治に関する研究活動を行ったり、賢治に興味を抱いたりする大学(院)生の参加が増加したことに拡張の実相を見ることができよう。そして、その中の重要な一要因として、県外大学の学生の増加を挙げたい。前回大会では、県外大学の学生は五大学にも満たなかった。それに比べ、今回は高知大学、関西大学、京都文教大学、法政大学、立教大学、早稲田大学、新潟大学などから多くの学生が参加し、大学数、参加者数は共に増加している。これは、学生大会が確実に「全国」の方向へと向かっていることを示しているだろう。尚、後者については、「第一

三、短歌色の強さから短歌大会の創出へ

今回の大会は、非常に「短歌色」が強いものであった。その「色」について、根底と中核に分けて説明したい。

四、課題を踏襲して第三回大会へ

このように、第一回から第二回に進むにつれ、徐々に進化を遂げる学生大会であるが、もちろん課題は存在する。それを二点に集約して以下に示す。まず、小・中学生の参加者にとって大会内容が難しかったのではないかとこの点を挙げる。参加者の小学生の様子を見ると、研究的な内容が多いためか、大会自体にはあまり参加できていないように思われた。しかし、研究的な要素を抜かすと、学生大会における研究的な交流が成り立たなくなる。そのため、今後としては研究的な面だけでなく、小・中学生も参加できるように内容を入れた、新たな大会の構成を考えていく必要があるだろう。

次に、全国規模の大会である以上、学生の更なる参加が必要であるという点だ。これは、第一回大会と同様の課題であるが、今回は岩手県の大学生の参加者が前年に比べ増加していないことに不安を覚える。今後は、広



学校賞を受け取る照井善耕花巻小学校長

まず、宮澤賢治の根源的な研究をされ、賢治短歌研究でも著名な佐藤通雅先生を基調講演にお招きできたことは、「色」の根底に位置するものだと考えよう。講演の内容を詳しく紹介する余裕がないのが残念だが、「賢治短歌の見方」と題された佐藤先生の講演は、伝記的な資料と意識されることの多かった短歌が、詩や童話と同様に重要な作品ジャンルであることについて「見方」を付しながら言及しているだけでなく、賢治を学ぼうとする学生に対して賢治短歌の持つ研究的な位置を教示するものであった。

また、賢治センターの望月善次代表も佐藤先生同様、賢治短歌の研究者として著名であり、佐藤・望月両先生の存在が初めて始まる今大会に「短歌色」の根底が築かれていることを付け加えておきたい。ここに来て、ようやく「短歌色」の中核に辿り着く。それは、前述した「第一回記念短歌大会」である。同大会の開催によって、学生大会が小学生から大学(院)生までを包含した学年横断的なものとなり、学生の枠を広げた新たな学生大会の創出を実現したと言ってもいい。同大会は、学生または生徒(小学生～大学生)を対象とし、賢治に関わる短歌を一人一首という条件のもと、全国に募集をかけたところ、小学生から大学(院)生に至るまで、全二〇四作品の応募を集めることができた。選者には、歌人である佐藤通雅・文屋亮・三木与志夫(望月善次)の三先生をお迎えし、選考していただいた。その結果、全ての小・大学生の作品の中で、山形県琢成小学校の三年生・柳沼舜君の作品が最優秀賞を受賞し、優秀賞や奨励賞に多くの受賞者を出した花巻市立花巻小学校に学校賞が贈られるなど、小学生的活躍が際立った。この結果は、第一回大会に相応しい、将来を見据えた運びになったことを示していると言える。その記念すべき「第一回」大会の受賞作品を以下で紹介しよう。

短歌大会受賞作品一覧

◆最優秀賞

・どんぐりを両手いっぱいひろったよ山ねこからのハガキまつてる(柳沼舜・山形県琢成小学校三年)

◆優秀賞

・絵も描けるそんな賢治も体育は苦手なところ私と似てる(久保田菜月・岩手県花巻小学校六年)

◆奨励賞

・美しき科もつ人を訪ねゆく蠍の燃えかすばかりを踏んで(吉岡太朗・京都文教大学二年)

◆学校賞

花巻市立花巻小学校

◆奨励賞

- ・雨降る日一人で泣いて雨やどり賢治もそんな日があったかも(阿部廉・花巻市立花巻小学校六年)
・賢治さんあれ草に寝て空を見たと思ういつも平和に思う(岩本佳幸・花巻市立花巻小学校六年)
・種山にそっと顔だす星月夜賢治の気持ち分かれはじめた(上村康太・奥州市立江刺南中学校二年)
・「日輪と山」本物の作印はぎゅつとつまって迫力がある(小林里菜・花巻市立花巻小学校六年)
・賢治の字日本語だけ読めま



最優秀賞の小学生・柳沼舜君

せんでもそれがいい一つの魅力(佐藤理紗子・花巻市立花巻小学校六年)
・この道を賢治さんも歩いたとしみじみ思いゆつくり歩く(高橋空・花巻市立花巻小学校六年)
・賢治さんあれ草に寝てころむなしばらくもいっしょにあれ草にねる(照井翔太・花巻市立花巻小学校六年)
・城址の白かべにある見張り穴賢治も見たか花巻の町(松尾悠・花巻市立花巻小学校六年)
・降りるべき駅で目覚めるもうひとつ先まで乗って降りようと思う(山口文子・法政大学四年)
(吉岡太朗さんは第五十回短歌研究新人賞「短歌研究社主催」の受賞者であり、山口文子さん、

第二回全国宮澤賢治学生大会の感想

法政大学文学部四年
山口 文子

報手段を工夫していくことはもちろんであるが、賢治の生きた岩手で開催する学生大会の意義を強調していかなければいけないだろう。

そして、これらの課題は、第三回大会で踏襲する方向で既に動き始めている。私自身、第一回・二回両大会の実行委員長として機能してきたが、修了の年を迎えるのは早いもので、今年度いっぱい現実的な大会運営からは離れることになる。故に、第三回からの大会運営は、後輩の実行委員に委ねることになる。

幸いにも、私の就職先が新聞社ということもあり、来年度からは広報の面で貢献していけそうだが、彼等ならきつと一味違った学生大会を見せてくれるだろう、という期待を込めて報告の結びとしたい。



青森から高知までの参加者一同

大会前日、東京駅で新幹線に乗り込んだときのワクワクは、盛岡に着くとドキドキに変わっていました。今回、私は第一回の学生短歌大会のつながりでパネリストを仰せつかりました。宮澤賢治を専門に勉強しているわけではないので、素っ頓狂なことを抜かして場を白けさせたらどうしようかと急に不安になったのです。

けれど、岩手大学に着き、実行委員の皆さんが生きて楽しくしそうに準備をしているのを見て、不思議とやる気とパワーが沸いてきました。大会の成功を目指し、一丸となっている姿に大いに刺激を受け、私まで絶対成功させたいという気持ちになっていたのです。

当日は無我夢中でしたが、皆さんが情熱をもって賢治を語る姿を見て柄にもなく感動してしまいました。そして、なにかひとつのことに打ち込み、熱く語ることのできる素晴らしさを改めて感じました。このような機会を頂けたことに、また、ここ

での出会いに深く感謝しています。

関西大学大学院
文学研究科一年
後藤 和彦

私は昨年度第一回全国宮澤賢治学生大会に参加させていただき、本大会では発表者として参加させていただくというこの上ない幸運に恵まれました。

本大会は短歌大会も挙行されており、オープニングの授賞式では受賞者の作品が紹介され、豊かな雰囲気の中での大会の幕開けがとて印象的でした。そして自由な意見が飛び交ったパネルディスカッションでは、パネリストの方々の伸びやかな洞察とその意見には強い感慨を覚え、佐藤通雅先生のご講演では先生ご自身の賢治体験、賢治短歌への向き合い方、研究の課題などご著書を拝読させていただいた際とはまたことなつた新たな感動とその意義を感じさせていただきました。研究交流では先進の科学による賢治の再現や、賢治童話の新たな読みの可能性を感じさせていただき、自分の

拙い発表にもご意見や励ましをいただいたこともとても大切な思い出です。

大会を通じてたくさんの方にお会いさせていただき、様々なことをご指導くださいました皆様方、そして宮澤賢治センター、実行委員の皆様方には本当に世話になり感謝の念に耐えませぬ。イーハトーブの学び舎とそのもとに集った宮澤賢治の精神、それらを確かに拝させていただけたい自分にとつてとても幸せなことでした。

新潟大学大学院
教育学研究科一年
古寺 弥栄子

第二回全国宮澤賢治学生大会発表者として登壇させていただき、ほんとうにありがとうございました。

今回、実は私は自分から「発表したいです！」と言って、いきなり岩手大学の宮澤賢治センターの方に、お電話をさせていただいたのです。今から考えると、なんて恥ずかしいことをしてしまったんだろうとせめて、メールか手紙にしておけば、と思うのですが。でも、今回、新潟から参加させていただくことができて、本当に良い経験をさせていただけたのだと感じて



自啓寮歌を歌う空岡実行委員



願教寺の庭園は素晴らしい

おります。

岩手の学生さんが中心となって運営されているということで、とにかく、大会に関わるみなさんの賢治に対する熱にも驚きましたし、また、現代に至っても、賢治がこれほどまでに人を動かすことのできる存在であるという事実改めて胸が熱くなりました。

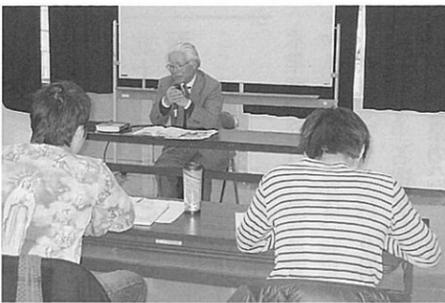
今後、益々大会が発展していくことを期待しております。

全国宮澤賢治学生研究会

ここから出発の夜明け ～関東支部を第一歩に更なる進化を～

全国宮澤賢治学生研究会は二〇〇七年十月に結成一周年を迎えました。これも皆様のご支援・ご指導あつてのことと深く感謝申し上げます。

十月には、第二回全国宮澤賢治学生大会の運営等を研究会として全面的に参加し、大きな成果を収めることが出来ました。そこでの大きな成果の一つが、十二月一日(土)の全国宮澤賢治学生大会関東支部の発足につながりました。関東支部は天野伸泰支部長(立教大学大学院二年)を中心として、月に一度定例研



萩原昌好先生の記念講演

究会を開いています。第一回の発足式においては、萩原昌好先生(十文字学園女子大学教授、埼玉大学名誉教授)をお迎えし、「宮澤賢治から宮澤賢治へ」という演題で講演を頂きました。また、当日は宮澤賢治研究会事務局長の赤田秀子氏・村上英一氏が多忙の中、激励のため駆けつけて下さいました。東京を中心に広く関東の宮澤賢治を研究する学生、興味を持つ学生の拠り所となることを確信しております。関東支部発足の詳細については、三月下旬発行予定の「全国宮澤賢治学生研究会会報第一号」をご覧ください。そして、この意義深い第一歩をこれからの「全国」と名乗るにふさわしい研究会作りへの励みとして邁進して行きます。

定例研究会の概要(第十一回(第十五回))

全国宮澤賢治学生研究会若手支部の活動内容について簡単に

記します。

▽第十一回(八月十八日、岩手大学)「風の又三郎」に迫る」下家美里(岩手大学大学院二年)司会・稲垣大助(同会・会長)

▽第十二回(九月十五日、盛岡大学)「雪渡り」に見る英語と日本語の表す雰囲気の違い」坂田美佳(盛岡大学三年)司会・稲垣大助(同会・会長)

▽第十三回(十一月二十五日、岩手大学)「全国宮澤賢治学生大会の課題と成果について」フリーデイスカッション」司会・澤江夏美(同会・副会長)

▽第十四回(一般公開)(十二月十五日、岩手大学)「宮澤賢治の菜食主義について」森荘巳池がごちそうになった食べ物などから」講師・森義真先生(近代文学研究家)司会・稲垣大助(同会・会長)

▽第十五回(二月二十六日、盛岡大学)「絵から見る賢治像について」伊藤愛(同会・副会長) 木村風友(盛岡大学二年)司会

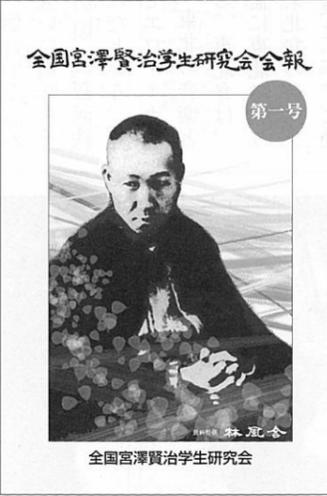
これからは若手本部では、定例研究会を毎月開催していく予定です。一般の皆様や、小・中・高校生を視野に入れて、様々な定例研究会を企画して参りたいと考えております。詳細につきましては、賢治センターを通じて、随時皆様にご連絡いたします。是非、足をお運び下さい。

全国宮澤賢治学生研究会報のおしらせ

この度、全国宮澤賢治学生研究会では、全国の宮澤賢治研究をする学生の研究成果、学生研究会の活動内容について、会報としてまとめました。若い世代がどのように賢治に興味を持ち、どのように学んでいるのか、研究しているのが垣間見られる一冊に仕上がる予定です。

また、会報には、岩手大学平山学長をはじめ、玉理事、賢治センター望月代表からの寄稿もいただきます。学生による論文投稿の充実はもちろんのこと、創作作品の投稿も充実し、第五十回短歌研究新人賞を受賞し、今、短歌界で注目を集めている吉岡太朗さん(京都文教大学二年)や歌誌「りとむ」で活躍中の山口文子さん(法政大学四年)からも素晴らしい作品をご投稿いただきました。

「若さ」の力と想像力を皆様のお手にお取りになり、是非ご覧下さい。尚、会員の皆様に無料でお配りいたします。会報の完成は、三月下



皆様の手に届くのを待つ会報



盛岡大学での研究会風景

旬を予定しております。今しばらくお待ちください。ご希望の方は、センター通信に同封されております申込用紙に必要事項をご記入の上、事務局までお送り下さい。また、会報は宮澤賢治センター定例研究会でもお配りする予定です。定例研究会にお越しの際に声をおかけ下さい。

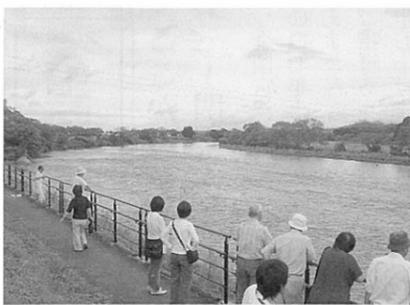
(飯村裕樹 記)

会員からの投稿

北上川に託(よ)せた賢治の想い

盛岡市三ツ割3丁目 永井 雅子

本年度二回目の「宮澤賢治センター」実地研究は、「花巻・北上コース」でした。9月の三連休の中日。名古屋、千葉、東京などの遠来の会員の参加で華やき、おまけに列島を覆う停滞前線との道ずれで、刺激的な実地研究となりそうでした。不思議なことに見界の効かない雨の時は車中か館内、外の見学の時はなぜか雨が止んで...というふうでしたが、翌日も終日雨。翌々日の朝刊の一面には「大雨県内で猛威」、「花巻273ミリ、2、658世帯に避難勧告」の見出し



雨で増水した「イギリス海岸」

しと「北上川の増水により冠水した展勝地公園の桜並木」と銘打つ写真とキャプションに目を疑いました。

前日に、展勝地の桜並木から和賀川と北上川の落ち合う風景を目の当たりにしたばかりの私には、俄には信じがたい光景でした。賢治が亡くなる二年前の八月にも岩手は大洪水に見舞われ、十月には冷害凶作の為、娘の身売りや一家離散の悲劇が続出します。賢治にとって、北上川はどんなイメージを描いた大江だったのでしょうか。

午前中に見学した「イギリス海岸」は、賢治が農場実習の合間に生徒達と度々訪れ「バタケルミの化石」や「偶蹄類の足跡化石」等を発見したり、採取したりして、白亜紀の海の渚に戯れた処です。それが作品「銀河鉄道の夜」では、川にはまったザネリを助けたカンパネラが見えなくなる「白亜の渚」が「修羅の渚」に変貌して

あ、こはこれいづちの河のけしきぞや人と死びととむれながれたり

の連作短歌「青びとのながれ」に一転します。

賢治は「煩惱具足のわれらは生死の迷いはなれることが難しい」と説く親鸞の悟りにも似たあがきを川に載せたのでしようか。

はからずも、展勝地で川の唸りを聴いたばかりに、私にとっての実地研究は「北上川に託せた賢治の想いを思索する旅」となりました。同行の皆様には感謝致します。

青春が蘇った 全国宮澤賢治学生大会

釜石市甲子町 照井 毛ト

昨年十月の、第二回全国宮澤賢治学生大会。あれから大分経ったが、二日目の閉会式で、青春が蘇った光景が目には焼き付いて離れない。今でも、探求心をかりたてられる。

大会会場のG1大講義室を教えてくれた二人の女子学生は、別のサークル活動に行ってしまう。丁度、短歌会の表彰が終わったところで、山形県の小学生が会場を明るくしていた。

間もなく、「学生達の読む賢治童話」のパネルディスカッションが始まり、稲垣大会実行委員長の周到な進行で、全国からの

四人の学生達の、個性的な読みとりが語られ、大いに興味をそられた。子供の頃、「銀河鉄道の夜」に惹かれたという、ロシア出身のエフセエフ・エカテリーナさんは、「東北の音楽と方言は関係がある。東北弁は、おしゃべりだ。お盆に東北の祭りを観ていたら、東北弁の音にブルン・ブルンと震えた。」と述べ、二年連続参加の高知大学松下さんは、「岩手に来て豊かな自然と方言、土着性があつたから賢治童話が生まれた、と判った。方言で読むと、作品に命が吹き込まれる。」と述べた。その後、基調講演・研究交流と続き、充実した一日は終了した。

次に翌日の賢治緑の寺院を巡り終え、岩大植物園で迎えた閉会式の模様を特記したい。

閉会の辞を述べた、栃木県出身の飯村君。合格した東京の大学を蹴って岩手大学を選び、望月先生の研究室を訪ねた際に、手渡された一冊の本から開けた、賢治研究。全国学生大会が生まれる文化創造への展望を第三回大会に繋げたい、と謝辞を述べた。おの瞬間を、飯村君の横で温かく見守っておられた望月先生の、教え子の成長を喜ばれる満面の笑みは、とても感動的で



学生時代の青春が蘇った照井さん

私は思わず、手を挙げてしまったのです。入学から目標を持って学び続ける後輩に、自分の学生時代を反省させられ、もう一度青春に戻りたい血潮が滾ったことへの感謝と、地元大学生達にもっと参加して欲しい感想を述べてしまいました。

以前に埼玉の公民館で、「賢治講座」を受けた時、岩手出身を羨ましがられたことを思い出します。学生達よ！岩手の宝に関心を持ち「灯台下暗し」にならないように、学ぶチャンス逃さないで欲しいです！



宮澤賢治記念短歌会

宮澤賢治記念短歌会は、農学部百年記念館を会場にして、毎月一回の活動を行っている。

賢治の盛岡高等農林時代の文学活動の中心が「短歌」であったことを「記念」してのものである。短歌そのものの技量を上達させようというより、短歌と「戯れながら」、短歌への違和感を減少し、「楽しみながら」賢治へのアプローチの幅を広げようとするものである。作品化する対象は自由であるが、「できれば賢治に関わる作品」を入れることを努力目標としている。

内容的には、望月の「賢治短歌」による「ミニ講義」と会員持ち寄りの短歌作品朗読評語を行っている。合評は、ほとんどの場合、匿名投稿作品を望月（または代理の学生）が一覧にしたものを出席者が選をし、それに基づいたコメントを出し合うという所謂「歌会」方式で行っている。

ここ数年は、望月の盛岡大文学長就任とインド・デリー大講義の関係もあり、日程調整に苦戦している実態もあるが、毎回少人数ながらも、和気藹々とした会をもっている。

今回は、誌面の関係で、その具体には及ばないが、望月の「ミニ講義」の方は、「文学としての賢治短歌」という基本方針のもとに、一時間少しいろい全体時間を圧迫しないことを心がけて、「ポイント」を短時間（長くても十五分を越えない）でという方針で行っている。なお、「文学としての賢治短歌」は、近年における望月の賢治研究の中心的課題でもあり、以下のような口頭発表や短歌評語を行っている。

◆望月善次（賢治短歌評釈）
賢治の歌、「盛岡タイムス」(2004.4.1)
2008.1.25現在1,000回。

◆望月善次（文学作品としての賢治短歌2）
賢治短歌の技法（中村明の比喩三分類（指標・結合・文脈）の観点から）
(第十六回宮澤賢治研究発表、2006.9.23/宮澤賢治イハトープセンター)

◆望月善次（文学作品としての賢治短歌2）
賢治短歌の技法（中村明の比喩三分類（指標・結合・文脈）の観点から）
(第十六回宮澤賢治研究発表、2006.9.23/宮澤賢治イハトープセンター)

夏の歌(五十音順)

姉齒武司(盛岡市)
今宵また生命のはかなき知る故
か止まずにうたり虫ぞ愛しき

飯村裕樹(岩手大学)
「じゃあ、またね」話し足りない
帰り際 新しい何か動き出す夏

稲垣大助(岩手大学大学院)
最後尾をゆく殿の吾の得た百合
は夏の香にはふ愛宕山の源

大林あや子(盛岡市)
つゆ晴れのしづくに濡れて青々
と山の斜面の草は潤

北田まゆみ(盛岡市)
何気なき動きに惹くこと多かつた
とえばジャムの蓋開けるとき

向井田薫(盛岡市)
盛岡の高等農林資料館賢治は静
かに足下を見つめ

冬の歌(五十音順)

吉田直美(盛岡市)
シヤカシヤカと線香花火の閃光
を放つが如く街灯浮かぶ

吉田直美(盛岡市)
大雪はすべてのことが雪かきに
順番来るああ大晦日

望月善次(盛岡市)
アンペール城の 象の背中に揺
られたる冬の夢にも賢治は螢

向井田薫(盛岡市)
冬の夜西に輝く三つ星は賢治詠
える逆さオリオン

平田真子(岩手大学)
個性派がゴロリとこたつを囲み居
て酔って寄られて困って寄せ鍋

鈴木梨香(岩手大学)
凍て雲もこの銀世界も飛び越え
てあの橋渡つてきみに会いたい

佐藤静子(盛岡市)
めつきりと母の笑顔の減りし冬
南天の実の五つ六つばかり
今日母の命を姉の手に渡し上野
にムンクのさげびを見に行く

小菅アイ(盛岡市)
光さす雪の木立にたつ影が我と
重なる雪道青し

北田まゆみ(盛岡市)
燃えカスが浮遊すると降りき
たり冬の終わりを告げ来し雪か
も

大林あや子(盛岡市)
鉢植えを持ち来し友が蝶のごと
訪れてわれを見守りくれん

稲垣大助(岩手大学大学院)
キシキシと泣くか否かを身に抱
え我が身震わす祖母の声色

飯村裕樹(岩手大学)
止められた呼吸を一度許されて
心の中の寂しき動く

阿部真紀子(盛岡市)
冬越さむ熊の脂は真白にて手を
合わせつつ命いただく

姉齒武司(盛岡市)
寒朝に粉雪舞い入る野天風呂寒
さのあまるお前も入浴るか

宮澤賢治センターホームページ情報

開設一周年を迎えて
ホームページの更なる活用を！

宮澤賢治センターのホームページが開設され、一年が経ちました。アクセスは早五千件を突破する勢いです。「これからどんな定例研究会が行われるか知りたい」「過去にどんな催しがあったのだろう」とそんな疑問や関心を瞬時に解決してくれるのが、

ホームページです。今や老若男女を問わずインターネットを利用する時代で、その価値は非常に大きなものがあります。情報発信し、集約したい。多くの皆様に根ざした会になるための大きな要をこのホームページが担っていくことは間違いありません。賢治センターの情報

は勿論、宮澤賢治に関する関心に応えられるようなホームページを心がけます。そのためにも是非とも皆様のご意見・ご要望を事務局までお寄せ下さい。皆様のご期待に応えられますよう最善を尽くします。
(飯村裕樹 記)

「宮澤賢治センター」事務局の所在地
「MUI」をご存知ですか？

◎ 岩手大学における社会貢献活動の中心的役割を担っているのが、岩手大学地域連携推進センターで、その産学官連携活動は、内外から高い評価をうけています。
◎ 盛岡市でも昨年秋季に、盛岡市産学官連携推進センターを、岩手大学工学部内に建設しました。盛岡の街は、原敬や石

川啄木を始め多くの先人を排出し、宮澤賢治も青春時代をこの地で過ごしています。
◎ 平成18年6月に、発足した「宮澤賢治センター」も、この産・学・官活動と連携をとるために、「地域連携推進センター」のお世話を頂いております。
◎ センター通信第5号の発行を7月に予定しています。
◎ 会員の投稿を募集します。
◎ 原稿の長さは、本文・800字程度。
◎ 原稿の締切は、6月末日。
(向井田薫 記)

編集後記

▽賢治の「経理ムベキ山」を結び、北上川(銀河)を挟んで四つの星座になることを初めて教わりました。(向井田薫)
▽そうすると、「経理ズムベキ山」の登山は星巡りでしょうか。その話は、ナスカの地上絵のような驚きです。(飯村裕樹)
▽賢治は本当に凄い人ですね！賢治は宇宙人でしょうか？ 我々会員が32の山を登り終えるのは何時のことでしょうか？(薫)
▽来年度は多くの山に登りたいですね。必ず、皆さんと共に制覇したいです！(裕)
▽賢治センターの活動も充実し、「センター通信」も16頁に増やしました。岡澤さんの特別寄稿も頂戴しました。有り難うございました。(薫)

宮澤賢治センター - Mozilla Firefox
http://kenji.cg.cis.iwate-u.ac.jp/
宮澤賢治センター
あいさつ 定例研究会 お知らせ 入会のご案内 リンク集 お問い合わせ
新着情報
2月定例研究会 2/19追加
2008年2月27日(水)
1月定例研究会 12/6追加
2008年1月22日(火)
賢治生誕110年の年である2006年の開学記念日[6月1日]を期して、岩手大学では、「宮澤賢治センター」を設立することにいたしました。
あいさつ 定例研究会のご案内と報告 お知らせ
宮澤賢治センターの設立趣旨 定例研究会は、どなたでも参加できます。 宮澤賢治に関する色々な情報をお届けします。
役員名簿 2月定例研究会 2/19追加 2008年2月27日(水) 17:00~ 岩手文芸祭(文芸評論部) 2007年10月14日(日)
賢治センター入会のご案内 宮澤賢治リンク集 お問い合わせ
趣旨にご賛同いただける方であれば、どなたでも入会できます。 宮澤賢治センターに関するお問い合わせは、こちらのフォームメールからも出来ます。
宮澤賢治センターの連絡先
設置場所: 岩手大学内「百年記念館」
日常の連絡先: 岩手大学地域連携推進センター
TEL: 019-621-6672 FAX: 019-621-6493
E-mail: renkei@iwate-u.ac.jp
個人情報の取扱いについて Total 004826 access

http://kenji.cg.cis.iwate-u.ac.jp/



コラボMUIは、collaboration of Morioka city and Iwate University の略称です。

宮澤賢治センター通信
発行
〒020-0185 五五
盛岡市上田四丁目三番五号
電話 019-621-6672
FAX 019-621-6493
E-mail: kenji@iwate-u.ac.jp
宮澤賢治センター(岩手大学内)
発行責任者 望月善次
印刷 杜陵高速印刷株式会社

▽学生のページも増やしていただきました。賢治センターの活動も負けずに活発にしていきたいと思えます！(裕)